

第49回 RIDCマンスリー研究セミナー

身体で語ること

－18世紀フランスの言語改革－

スピーカー

岡山大学社会文化科学学域 准教授

川野 恵子

日時

2025年10月15日(水)

12:00～13:00

場所

オンライン開催



18世紀は身体が言語の起源として哲学の領域において急にクローズアップされるようになった時代である。経験論による哲学的転回を引き受けた啓蒙思想家たちは、哲学の照準を神から人間へと定めなおし、あらゆる哲学的主題の再定義に取り組んだ。そのなかで言語が神から授けられたものでないとしたら、人間はいかに経験的に言語を獲得したのかという問いから言語起源論が流行し、身体が言語起源として位置付けられた。ただし言語活動をとりわけ人間知性に求めてきた哲学的伝統、さらに精神的活動(*artes liberales*)と肉体労働(*artes mechanicae*)のヒエラルキーを構築してきた技術概念の伝統からすれば、「身体」とは言語活動とは最も程遠い存在であり、当然論争の標的でもあった。本セミナーでは当時の言語論や芸術論、また舞踊論を読み解きながら、身体を言語に含めた時、どのような言語概念の刷新が起こったのか明らかにする。

お申し込み先

<https://forms.gle/5Loqt88rtXLvGWwBA>

お申し込み締め切り

10月14日 12:00

お問い合わせ先

文明動態学研究所 ridc@okayama-u.ac.jp



*オンライン開催のため、ご参加希望の方は事前申し込みをお願いします。折り返し、参加用URLをお送りします。